

津軽天然藍染 川崎染工場

〒036-8332 青森県弘前市亀甲町六三番地
電話・FAX (017) 351-6552
<http://www.kawasaki-somekojo.com/>

天然藍染は手間と時間を要しますが糸に染着した藍が生きておりますので洗うほど色が冴え、その芳香は薬効をもち、歳月をおくほど色も落ち着き、自然から生まれた美しく澄んだ藍の色が年とともに輝いてまいります。また藍の歴史四千年のうち二千年は薬用でした。

- 藍の効用
- 一、肌荒れ、冷え性を防ぐ
 - 二、衣類や和紙の防虫用となる
 - 三、靴下、足袋に使うと水虫やまむし(毒蛇)禍を防ぐ
 - 四、鎮静剤として薬効がある
 - 五、「殺菌性」があり包帯に使うとよい
 - 六、強精剤、種子を五グラムを一日量とし炒って食べる
 - 七、丹毒、魚中毒、きのこ中毒、陰乾葉を十グラム水二、五合で半量に煎じ一日三回に分服
 - 八、歯痛、葉の黒焼粉末を嚙む
 - 九、腫物、虫さされ、生葉をもんで患部に貼る、生葉の青汁を塗る
 - 十、解熱、解毒、種子五〜十グラムを水一、五合で〇、五に煎じ一日二回に分服、その他痔疾、等に用いる

津軽天然藍染めの歴史

日本で藍が栽培されるようになったのは三世紀頃からといわれ津軽では、藩政時代の四代藩主 信政公の時代に、(1656年〜1710年)お城の西方に紺屋町をつくり、百軒余の紺屋があったと記録にあります。また、京都から技術者を招いて、養蚕や機織りと共に藍染の振興をはかったという記録もあります。しかし、藩政時代の末期から廢藩置県などの歴史の変遷と明治以降の化学染料の発見と普及により、天然藍染は姿を消しましたが、今また自然の藍の良さが、その美しさと堅牢性薬効性などと共に見直されており静かなブームとなっています。当津軽天然藍染川崎染工場は、天明 寛政 の頃からの紺屋で、当時から建物と藍甕かめ藍場を修復して津軽天然藍染の継承と普及に努めております。

また、紺屋 川崎家の守り本尊は「愛染明王」さまです。藍染が愛染に通じ、藍がすべての愛に通じることを希っています。

天然藍染は摩擦による他のものへの汚染や日光による変退色が生じることがあります。お洗濯はドライクリーニングをさけ、ぬるま湯で固形石けんや、中性洗剤で昔のように手でたたき洗いで、軽く絞り陰干して下されば幸いです。厚手のものは最初の洗濯のときに余分な藍が落ちる場合がありますので白いものと分けてください。

お洗濯の際には、色を長持ちさせるために
蛍光剤・漂白剤等無添加のおしゃれ着用洗剤をおすすめ致します。

商品例

